

令和 7 年度

教 育 計 画

EDUCATIONAL PLAN

岡山県農林水産総合センター
農 業 大 学 校

Okayama Prefectural Technology Center
for Agriculture , Forestry and Fisheries

College of Agriculture

本 校 〒701-2223 赤磐市東窪田 157
電話 (086) 955-0550
旭分校 〒709-3494 久米郡美咲町北 2272
電話 (0867) 27-3321

目 次

1	教育の目標	1
2	教育の特色	1
3	教育（授業）の方法	1
4	教育体系	2
5	教育の内容	3
	(1)教育の進め方	3
	(2)授業科目別時間数	4
	(3)授業科目及び時間	5
	(4)年間授業計画（令和7年度）	10
	(5)専攻別演習・実習計画	16
	(6)総括学修	24
	(7)免許・資格の取得	26
6	学修評価基準	26
7	教育・寮生活日課表	27
8	先進農家留学研修実施要領	28
9	令和7年度応用技術研修等計画	29
10	令和7年度主要行事予定	30
11	実習施設配置図	31

この教育計画は、岡山県農林水産総合センター農業大学校校則（以下「校則」という。）第 19 条の規定により、岡山県農林水産総合センター農業大学校（以下「大学校」という。）において、大学校の学生が履修する授業科目及び授業時間数について定めるものである。

さらに、校則第 27 条第 2 項の規定により、大学校の学生、一般農業者及び新規就農者等を対象として、大学校で実施する研修講座についても定めるものである。

1 教育の目標

農業の実践教育を通して、将来の岡山県農業を担う青年農業者を育てるとともに、農業に関係する団体や企業等を支える多様な人材を育成する。

また、農業経営の規模拡大や効率化等に必要な免許や資格を取得するための研修を行い、地域農業の担い手を支援する。

2 教育の特色

- (1) 農林水産総合センターの機能を最大限活用し、試験研究・普及と一体となった実践的技術教育を行う。
- (2) パソコンによる情報処理や各種資格等、社会から求められる知識と技術を身に付けるとともに、ICT 技術を活用したスマート農業や G A P 等これからの農業に必須となる先端技術について幅広い教育を行う。
- (3) 県内の農業普及指導センターや先進農家との連携を図り、先進農家留学研修を通して先進農家の技術を学ぶとともに実践的な経営感覚を醸成する。
- (4) 校内において自分自身で実際に栽培等を行うプロジェクト学修を実施し、演習や実習を通して実際の栽培管理技術や飼養管理技術、経営管理技術を修得する。
- (5) 寮生活により協調と自律の精神を養い、社会人としての資質を身に付ける。
- (6) 担い手の育成を図るため、開かれた農業大学校として、一般農業者や新規就農者等を対象に研修講座を設け、トラクター運転技術、アーク溶接等の応用技術研修を行う。

3 教育（授業）の方法

	期間・場所	教 科 (授業形態)
園 芸 課 程	1 学年：本校 2 学年：本校	教養科目 (講義、実技) 共通専門科目 (講義、演習、実験、実技、実習) 園芸専門科目 (講義) 園芸専攻科目 (講義、演習、実習) 特別活動 (講義、実技)
畜 産 課 程	1 学年 ・ 4 月～12 月：本校 ・ 1 月～3 月：分校 2 学年 ・ 4 月～11 月：分校 ・ 12 月～3 月：本校 (分校期間の月・火曜日は本校)	教養科目 (講義、実技) 共通専門科目 (講義、演習、実験、実技、実習) 畜産専門(専攻)科目 (講義、実験、演習、実習) 特別活動 (講義、実技)

- ・ 教養科目、共通専門科目は、全学生が履修する。
- ・ 園芸専門科目は、園芸課程の全学生が履修する。
- ・ 園芸専攻科目は、園芸課程各コースの学生が履修する。
- ・ 畜産専門(専攻)科目は、畜産課程和牛コースの学生が履修する。
- ・ 特別活動は、全学生が履修する。

4 教育体系

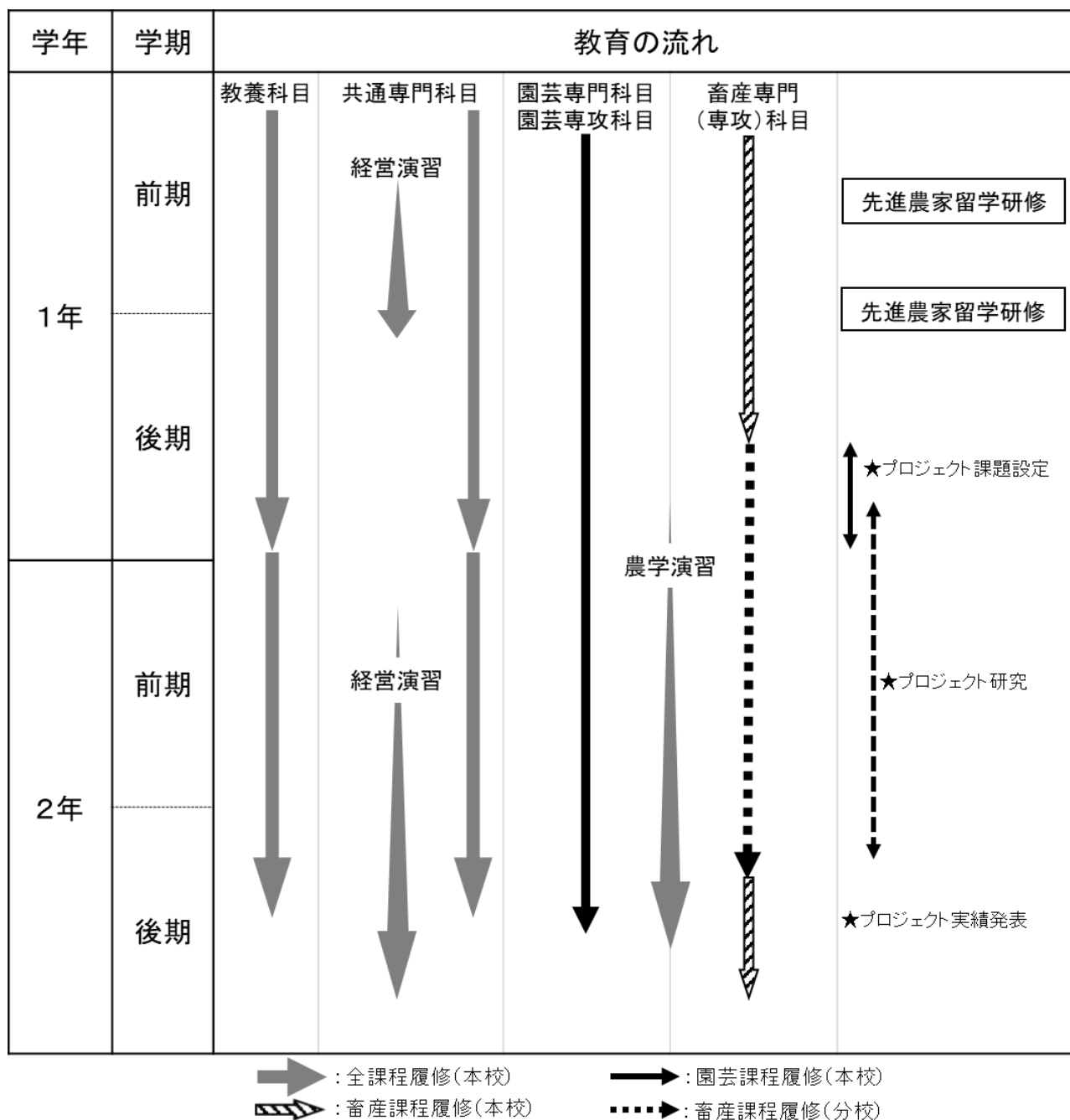
先進的な経営を行うにふさわしい人材を養成するため、1年次にはまず農業に関する基礎的な知識を学ぶ。作物や家畜の生理、生態や生産基本技術を学ぶ専攻科目と、作目への理解をより深めるための共通専門科目の修得を組み合わせ、さらに、全履修時間の概ね50%を農場での専攻実習とし、実践教育による専攻作目の共通技術を修得する。

特に、前期、後期の2回に分けた先進農家留学研修で農業経営者の技術や経営、生活等に対する考え方を産地現場において学修する。

2年次では自ら課題解決を図るためのプロジェクト学修に取り組む。自ら課題を設定、計画を立案し、農場において課題解決に至るプロセスを学び、農業経営を実践するうえで必要な能力の向上を図る。共通専門科目や専攻科目も合わせて修得し、プロジェクト学修の成果を踏まえて実現可能な農業経営計画を作成する。

なお、2年間の教育の中で、社会生活に役立つ教養科目の履修や、社会的に認知された各種資格免許等の取得支援を計画的に実施する。

また、各授業科目の内容、到達目標、成績評価方法等についてはシラバスを参照。



5 教育の内容

(1) 教育の進め方

「農林水産総合センター」の研究部門（農業研究所、畜産研究所等）や普及部門と一体となって、岡山県の農業施策を踏まえ、低コスト、高付加価値生産を進めるため、先進的な生産知識・技術等を身につけ、企業的経営能力・創造力の開発、地域リーダーとなり得る人材の育成に努める。

ア 就農意欲を高めるための教育

先進農家留学研修等による実践的経営感覚の修得。先進技術・応用技術研修など就農者としての必要な資格などの取得

イ 先端技術・高度情報化等に対応するための教育

農業技術の高度化に対応できるバイオテクノロジーやICT、IoTなどの知識・技術の修得

ウ 低コスト、高付加価値生産を推進するための教育

プロジェクト学修等の実践教育による、生産コストの低減や生産物の高品質、高付加価値化を進めるのに必要な知識・技術の修得

エ 企業的な経営能力の開発・促進するための教育

経営者能力の向上を目的とした、生産性の向上、経営の分析、マーケティング等のコスト感覚の養成に関する知識・技術の修得

オ 地域リーダーとしての能力開発をするための教育

広い視野と人間性豊かな人格の形成と、地域リーダーとなるべき能力の開発を目的とした、社会文化、社会常識等の一般教養の修得

カ 創造性の開発を促進させるための教育

国際経済の自由化、グローバル化の中の農業情勢に対応できる、独創的な発想、実行力を発揮できる能力の修得

キ 時代のニーズに応え学修意欲を高めるための教育

岡山大学等の外部講師による園芸概論、農業法規、農政時事問題、集落管理計画論等の共通専門科目や有機農業論、GAP実践論、フラワー装飾、6次産業化起業論、スマート農業実践論など社会的に関心が高い分野についての教育内容を充実

ク 学校生活に活力をみなぎらせる教育

魅力と活力ある学校生活とするため、特別講義、校外研修、収穫祭などの特別活動。学生が目的意識や自主性を身につけられるよう、学生自治会及び寮自治会など課外活動の自主的活動を推進

(2) 授業科目別時間数

授業科目	学年	科目数	講義	実技・演習	実験	実習	特別活動	時間数計
教養科目 A	1	5	57	45				102
	2	2		39				39
	計	7	57	84				141
特別活動等 B	園芸	1	15				57	72
		2	3				45	48
	畜産	1	15				60	75
		2	3				39	42
	園芸計		9	18			102	120
	畜産計		9	18			99	117
共通専門科目 C	1	17	162	72	42	144		420
	2	7	87	144				231
	計	24	249	216	42	144		651
園芸専門科目 D	1	2	42					42
	2	5	63	15				78
	計	7	105	15				120
園芸専攻科目 E	1	3	30	33		549		612
	2	4	72	141		546		759
	計	7	102	174		1,095		1,371
園芸課程小計 G (C+D+E)	1	22	234	105	42	693		1,074
	2	16	222	300		546		1,068
	計	38	456	405	42	1,239		2,142
園芸課程合計 (A+B+G)	1	32	306	150	42	693	57	1,248
	2	22	225	339		546	45	1,155
	合計	54	531	489	42	1,239	102	2,403
畜産 専門(専攻)科目 F	1	7	99	33		519		651
	2	9	87	141	12	603		843
	計	16	186	174	12	1,122		1,494
畜産課程小計 H (C+F)	1	24	261	105	42	663		1,071
	2	16	174	285	12	603		1,074
	計	40	435	390	54	1,266		2,145
畜産課程合計 (A+B+H)	1	34	333	150	42	663	60	1,248
	2	22	177	324	12	603	39	1,155
	合計	56	510	474	54	1,266	99	2,403

(注) 1年生「生物工学実験Ⅰ」非選択者は実習+27時間
2年生園芸課程は「フラワー装飾」「森林資源活用」非選択者は各実習+15時間

(3) 授業科目及び時間

ア 教養科目

科 目	講 師	内 容	授業 形態	時 間			単位 数
				1年	2年	計	
人間と社会	学識経験者	和太鼓、フラワーアレンジ、ペン習字、英語から1科目選択	実技	30	24	54	2
暮らしと環境	学識経験者 民間他	防火対策・避難訓練、栄養管理・健康対策、消費者教育、交通安全、救急救命、農業気象等に関する講習	講義	18		18	1
体 育	農 大	ソフトボール、卓球、バドミントン等	実技	15	15	30	2
応用化学	農 大	危険物取扱者の資格取得に向けた危険物に関する法令、基礎的な物理・化学、性質・消火方法等についての講義	講義	15		15	1
社会科学基礎	農業経営者 民間他	就農や就職に向けた社会科学関係の基礎知識の習得（オムニバス形式）	講義	24		24	1
合 計				102	39	141	7

イ 特別活動

科 目	講 師 又は主催	内 容	授業 形態	時 間		
				1年	2年	計
式典	農 大	始業式、終業式、入学式、卒業式 式典準備及び後片付けを含め、儀式の進行方法及びマナー等を身に付ける。	特活	9	6	15
イベント運営	学生自治会 農 大	交流会、農大体育の日、収穫祭、校内環境美化作業 校内行事の計画及び実行の自主運営及び環境整備意識を身に付ける。	特活	39	33	72
研修(校内)	農 大	就農・就職説明会、オリエンテーション 就農及び就職説明会等を通して、将来の進路を決定する上で重要な知識を習得する。	特活	3	6	9
研修(校外)	農 大	県内外の農業・産業・文化施設の視察 農業等の現地視察や体験型研修により、農業や地域文化について理解を深める。	特活	6	-	6
特別講義	農業経営者 民 間 農産課 農 大	基礎数学、鳥獣害・狩猟免許、日本農業技術検定学習、海外農業研修説明会、避難訓練(2年生)等の農業や生活に必要とされる資格取得又は知識を習得する。	特活	15	3	18
合 計				72	48	120

応用技術研修※	民間他	小型車両系建設機械運転特別教育、トラクター運転技術、トラクターけん引運転技術、アーク溶接特別教育、フォークリフト運転技能の農業に必要な資格を取得する。	特活	102	102	204
---------	-----	---	----	-----	-----	-----

ウ 共通専門科目

科 目		講 師	内容及び到達目標	授業 形態	時 間			単位 数
					1年	2年	計	
農業基礎		農 大 農産課 民 間	農業の現状を理解するとともに、農作物栽培の基礎知識や農機具の使い方等を習得する。	講義	15		15	1
作物概論		普及推進課 農業研究所	作物（水稻、麦、大豆等）の現状と動向、生理生態、育苗・本田管理・施肥・収穫等栽培技術等を理解する。	講義	15		15	1
園芸概論		岡山大学	園芸作物の生理生態・繁殖法、園芸の役割等を理解する。	講義	15		15	1
園芸基礎		農 大	園芸作物の全般的な基礎知識や、一般的な栽培方法について理解する。	講義	18		18	1
先進農家留学研修		先進農家	先進農家での農作業・生活体験を通じ、農家の現状を理解する。	実習	144		144	5
畜産概論 (畜産学)		農 大	畜産における家畜生産と利用、育種、家畜管理、畜産経営等を理解する。	講義	18		18	1
集落管理計画論		岡山大学	農村地域の課題を理解し、リーダー育成に向けた事例研究、ワークショップ等を習得する。	講義	15		15	1
土壌肥料実験		農 大 農業研究所	土壌肥料の化学分析、土壌調査等の手法を習得する。	実験	15		15	1
土壌肥料概論		普及推進課 農業研究所	土壌の基本的性質、土壌管理、肥料の種類と性質、施肥設計等を理解する。	講義	21		21	1
農業経営論		農業研究所	農業経営の仕組み、マーケティングや農業・農村の役割等を理解する。	講義	15		15	1
農政時事問題		岡山大学	農政時事全般についての見識を深める。	講義	15		15	1
G A P 実践論		農 大 農産課 民 間	G A P に関する模擬演習や講義を通じ、知識を深める。	講義	15		15	1
農業機械利用		民 間	農業機械と農作業、トラクター等農作業機械の構造と取扱方法等を理解する。	実技	18		18	1
農業施設整備実習		民 間	簡易ハウスの設計、組立、分解操作を習得する。	実技	9		9	1
選 択	生物学実験Ⅰ※	農大、農業 開発研究所	植物の生長点等の無菌培養技術とバイオテクノロジーの知識を習得する。	実験	27		27	1
農業法人論		学識経験者	農業法人の種類、法人化のメリット、貸借対照表の見方等を理解する。	講義		15	15	1
農業法規		岡山大学	農地法、農業経営基盤強化促進法等農業関連法令に関する知識を深める。	講義		15	15	1
6次化起業論Ⅱ		農業開発研 究所	6次産業化商品の試作や開発、販売方法、需要動向等の講義を通じ、理解を深める。	講義		21	21	1
農業経営分析論		普及推進課 他	経営分析診断の手法、税金の仕組み、青色申告の仕方等により経営分析の手法を理解する。	講義		18	18	1
スマート農業実践論		農 大 民 間	スマート農業の現状と基礎知識を講義や視察研修を通じ、理解する。	講義		18	18	1
情報処理		民 間	ワープロ・表計算(1年)とワープロ・表計算応用、パワーポイント(2年)の操作方法を習得する。	演習	24	24	48	4
農業経営演習		農 大	先進農家留学研修の地域調査、報告書まとめ、発表(1年)、経営計画の作成等(2年)により農業の現状と課題を把握する。	演習	21	120	141	9
合 計					420	231	651	37

エ 園芸課程

(ア)園芸専門科目

科 目		講 師	内容及び到達目標	授業形態	時 間			単位数
					1年	2年	計	
作物保護論		農業研究所	植物病害の概念、病原、発病の生態、防除法、害虫の概念、生態、被害態様、防除法等に関する知識を深める。	講義	21		21	1
6次化起業論Ⅰ		農業開発研究所	6次産業化に必要な知識(農産物の成分、農産物の品質と変質、発酵食品、園芸食品の加工等)の理解を深める。	講義	21		21	1
有機農業論		農大、農産課 農業研究所等	有機農業の定義、土づくり、栽培基準、認証制度と表示等に関する知識を視察研修等を通じて深める。	講義		15	15	1
施設園芸論		岡山大学	施設園芸の特色、施設の種類と利用法等に関する知識を深める。	講義		15	15	1
生産物流通論		対外戦略推進室 農業団体 民間 農業者 市場等	農産物流通の現状と動向、消費者ニーズとマーケティング、卸売市場のしくみ等の知識を講義・視察研修により深める。	講義		18	18	1
選択	フラワー装飾※	学識経験者	講義や実技を通し、フラワー装飾技能資格2・3級取得を目指す。	実技		15	15	1
選択	森林資源活用※	森林研究所 農業者	森林資源の特性や利活用等に関する知識を深める。	講義		15	15	1
合 計					42	78	120	7

※選択科目を履修しない者は、実習とする。

(イ)園芸専攻科目

①果樹コース

科 目	講 師	内容及び到達目標	授業形態	時 間			単位 数
				1年	2年	計	
果樹園芸総論	農 大	果樹の種類、繁殖法、栽培適地、果樹の生理、整枝とせん定法、土壌管理と施肥技術、施設栽培等に関する知識を深める。	講義	15		15	1
果樹園芸各論	農 大 普及推進課 農業研究所	もも、ぶどう等本県主要果樹の品種特性や栽培管理技術、新技術等に関する知識を深める。	講義	15	48	63	4
果樹経営論	農 大	果樹経営の歴史と現状、改善方法等を県内外先進農家等の経営事例調査等により理解する。	講義		24	24	2
農 学 演 習	農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	33	141	174	7
*専 攻 実 習	農 大	農業普及指導員資格のある職員が、現場産地での栽培指導等、長年の実務経験を活かし実習の指導にあたる。別表のとおり（16～17ページ参照）	実習	549	546	1,095	34
合 計				612	759	1,371	48

②野菜コース

科 目	講 師	内容及び到達目標	授業形態	時 間			単位 数
				1年	2年	計	
野菜園芸総論	農 大	野菜の種類と増殖技術、作型、育苗技術、土壌管理と施肥技術、施設栽培、養液栽培、機械化技術等に関する知識を深める。	講義	15		15	1
野菜園芸各論	農 大 普及推進課 農業研究所	トマト、なす、きゅうり、いちご等主要品目の品種特性や栽培管理技術、新技術等に関する知識を深める。	講義	15	48	63	4
野菜経営論	農 大	野菜経営の歴史と現状、改善方法等を県内外先進農家等の経営事例調査等により理解する。	講義		24	24	2
農 学 演 習	農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	33	141	174	7
*専 攻 実 習	農 大	農業普及指導員資格のある職員が、現場産地での栽培指導等、長年の実務経験を活かし実習の指導にあたる。別表のとおり（18～19ページ参照）	実習	549	546	1,095	34
合 計				612	759	1,371	48

③花きコース

科 目	講 師	内容及び到達目標	授業形態	時 間			単位 数
				1年	2年	計	
花き園芸総論	農 大	花きの種類と育種方法、繁殖と種苗生産、土壌管理と施肥技術、生長と開花調節の方法、環境調節技術等に関する知識を深める。	講義	15		15	1
花き園芸各論	農 大 普及推進課 農業研究所	きく、カーネーション、ばら、シクラメン、花木、花壇苗等主要品目の品種特性や栽培管理技術、新技術等に関する知識を深める。	講義	15	48	63	4
花き経営論	農 大	花き経営の歴史と現状、改善方法等を県内外先進農家等の経営事例調査等により理解する。	講義		24	24	2
農 学 演 習	農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	33	141	174	7
*専 攻 実 習	農 大	農業普及指導員資格のある職員が、現場産地での栽培指導等、長年の実務経験を活かし実習の指導にあたる。別表のとおり（20～21ページ参照）	実習	549	546	1,095	34
合 計				612	759	1,371	48

* 実務経験のある教員等による授業科目

オ 畜産課程

(ア)畜産専門(専攻)科目

和牛コース

科 目		講 師	内容及び到達目標	授業形態	時 間			単位数
					1年	2年	計	
飼料学	飼料作物	農 大	飼料の種類・特徴、飼料作物の栽培利用技術等に関する知識を深める。	講義	18		18	1
	家畜栄養	岡山大学	消化器、栄養素の分類、消化吸収、物質代謝等に関する知識を深める。	講義	15		15	1
畜産物利用論		農 大 岡山大学 民 間	畜産物原料と加工利用に関する知識を深める。	講義	18		18	1
家畜管理		分 校	家畜環境、行動、畜舎施設等に関する知識を深める。	講義	15		15	1
家畜繁殖学	家畜繁殖	分 校	家畜の繁殖生理、ホルモン、妊娠及び分娩等に関する知識を深める。	講義	15		15	1
	家畜育種	分 校	育種、遺伝、人工授精、生殖器解剖等に関する知識を深める。	講義		15	15	1
家畜飼養学	家畜飼養	農 大	家畜飼養管理技術に関する知識を深める。	講義	18		18	1
	家畜疾病	分 校	家畜の疾病の原因、症状、予防、衛生管理等に関する知識を深める。	講義		15	15	1
	畜産経営論	農 大 分 校	肉用牛経営の現状や課題や改善方法を県内外先進農家の経営事例調査を通じ理解する。	講義		27	27	2
草地管理		分 校	草地概論、草地造成、草地管理利用、貯蔵飼料等に関する知識を深める。	講義		15	15	1
生物工学実験Ⅱ		分 校	受精卵の移植技術操作等を実験を通し、理解する。	実験		12	12	1
畜産環境保全		分 校	家畜排せつ物の処理方法、環境保全技術等に関する知識を深める。	講義		15	15	1
農学演習		農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	33	141	174	7
*専攻実習		農 大 分 校 農業者	農業普及指導員資格のある職員や畜産研究所で家畜の飼育管理を行っている職員が、その実務経験を活かし、実習の指導にあたる。 また、現地農場での実習を合わせて行い、より実際に即した先進的な技術を習得する。別表のとおり（22～23ページ参照）	実習	519	603	1,122	34
合 計					651	843	1,494	54

*実務経験のある教員等による授業科目（2年時は先進農家での実習120時間を含む）

(4)年間授業計画(令和7年度)

月	学年	月 曜		火 曜	水 曜	木 曜	金 曜	備考
		I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	
		6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月6日	6/3 プロジェクト中 間発表会 6/7 オープンキャン パス①
	1年園芸	選択:生物工学α④	人間と社会③	実習	作物概論⑤	園芸概論⑤	実習	特別活動 【環境美化】
	1年畜産	選択:生物工学β④	プロジェクト中間発表会②	実習	実習	実習	実習	
	2年園芸	農業法規③		選択:フア-装飾⑤	有機農業②	実習	実習	
	2年畜産	農業経営分析論④		実習(分校)	草地管理③	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)
		6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月13日	
	1年園芸			先進農家留学研修				
	1年畜産							6/15 危険物取扱者 試験
	2年園芸	実習	農業法人論①	実習	実習	有機農業③④【校外】	実習	園芸各論④
	2年畜産	農業経営説明会②	農業経営分析論⑤	実習(分校)	草地管理④	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)
6月		6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月20日	
	1年園芸			先進農家留学研修				
	1年畜産							
	2年園芸	実習	農業法人論②	実習	選択:森林資源活用①	実習	実習	実習
	2年畜産	農業経営⑦	農業経営分析論⑥	実習(分校)	草地管理⑤	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)
		6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月27日	
	1年園芸			先進農家留学研修				
	1年畜産							
	2年園芸	実習	農業法人論③	実習	実習	園芸経営論①②【校外】	実習	農業演習⑧
	2年畜産	農業経営演習Ⅱ①	スマート農業実践論①	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)
		6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月4日	
	1年園芸	実習	実習	農業経営演習Ⅰ③	園芸基礎④	選択:生物工学α⑤	選択:生物工学β⑤	7/5日本農業技術 検定
	1年畜産	飼料作物③	実習	実習	実習	園芸経営論③④⑤⑥【校外】		7/6農業簿記検 定
	2年園芸	農業法規④	農業法人論④	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	2年畜産	実習		校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
		7月7日	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月11日	
	1年園芸	実習		実習	実習	実習	実習	7/8 プロジェクト中 間発表会
	1年畜産	飼料作物④	人間と社会④	実習	実習	実習	実習	小型建機
	2年園芸	農業法規⑤		実習	実習	実習	実習	
	2年畜産	実習		校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	応用技術研修			小型建機	小型建機	小型建機	小型建機	
		7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月18日	
7月	1年園芸	実習	実習	実習	実習	実習	実習	7/15 プロジェクト中 間発表会
	1年畜産	実習	実習	実習	実習	実習	実習	
	2年園芸	実習	農業法人論⑤	実習	実習	有機農業⑤	実習	園芸各論⑤
	2年畜産	実習	農業演習⑨	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
		7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月25日	7/23 あぐり夢未来塾
	1年園芸		実習	情報処理①	実習	実習	実習	7/26 オープンキャン パス②
	1年畜産	海の日	飼料作物⑤	実習	実習	実習	実習	
	2年園芸		実習	実習	実習	実習	実習	
	2年畜産		スマート農業実践論②	情報処理①	園芸各論⑥	園芸各論⑥	実習	
			農業演習⑩	農業演習⑪	農業演習⑫	農業演習⑬	農業演習⑭	
		7月28日	7月29日	7月30日	7月31日	8月1日	8月1日	
	1年園芸	情報処理②	情報処理③	情報処理④	情報処理④	特別活動 【環境美化】 (終業式)	夏季休業(プロジェクト研究)	
	1年畜産	集落管理計画論⑤	飼料作物⑥	実習	実習			
	2年園芸	実習	情報処理③	実習	実習			
	2年畜産	農業演習⑮	農業演習⑯	農業演習⑰	農業演習⑱			

(4)年間授業計画(令和7年度)

月	学年	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	備考		
								I・II 8:50～12:00 11月24日	I・II 8:50～12:00 11月25日
11月	1年園芸	振替休日	プロジェクト計画発表会(1年生)	実習	土壌肥料実験B②	GAP実践論②	社会科学基礎③	6次化起業論I②	畜産概論②
	1年畜産								
	2年園芸								
	2年畜産								
	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日	12月5日				
1年園芸	土壌肥料実験B③	土壌肥料概論④	畜産概論③④【校外】	土壌肥料概論⑤	社会科学基礎④	畜産概論⑤	12/6日本農業技術検定		
1年畜産									
2年園芸									
2年畜産									
	12月8日	12月9日	12月10日	12月11日	12月12日				
1年園芸	実習	土壌肥料概論⑥	作物保護論②	プロジェクト実績発表会	くらしと環境④	実習	12/10,11プロジェクト実績発表会		
1年畜産	家畜米糞③	畜産物利用論④	畜産物利用論③						
2年園芸	実習	農学演習⑩	農学演習⑪						
2年畜産									
	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	12月19日				
1年園芸	実習	6次化起業論I③	家畜人工授精師講習(蒔山)	畜産概論⑥	土壌肥料概論⑦	作物保護論③			
1年畜産	家畜米糞④	GAP実践論③							
2年園芸	実習	農学演習⑭					農学演習⑮	農学演習⑯	
2年畜産									
	12月22日	12月23日	12月24日	12月25日	12月26日				
1年園芸	実習	応用化学③	冬季休業(プロジェクト研究)						
1年畜産	家畜米糞⑤	応用化学④							
2年園芸	実習	実習							
2年畜産	実習	実習	12月30日	1月1日	1月2日				
	12月29日		12月31日	1月1日	1月2日				
	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日				
1年園芸	冬季休業(プロジェクト研究)	農学機械利用①	農学機械利用②	農学機械利用③	農学機械利用④	農学機械利用⑤	農学機械利用⑥		
1年畜産									
2年園芸									
2年畜産									
	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日				
1年園芸	成人の日	人間と社会⑨	GAP実践論④	6次化起業論I④	実習	実習	実習		
1年畜産									
2年園芸									
2年畜産									
	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日				
1年園芸	実習	社会科学基礎⑤	園芸各論①	作物保護論④	園芸各論②	中国四国プロジェクト・意見発表会(愛媛県)			
1年畜産	実習	GAP実践論⑤	家畜繁殖①	家畜管理①	家畜繁殖②				
2年園芸	実習	農業経営演習II⑩	農業経営演習II⑪	農業経営演習II⑫	農業経営演習II⑬				
2年畜産	実習	農業経営演習II⑪	農業経営演習II⑫	農業経営演習II⑬	農業経営演習II⑭				

(5) 専攻別演習・実習計画

ア 果樹コース

実習内容 と到達目標											
	1 年 生	1 もも、ぶどうを中心とした岡山県の主要な果樹について、基礎的な栽培技術を修得する。 2 永年作物である果樹の特性を理解するため、果樹の栽培管理を通じて生育状況の把握と観察力を養う 〔主な栽培管理〕 ・もも: 人工受粉、摘果、袋掛け、収穫、施肥、土づくり、剪定、摘蕾、除草 ・ぶどう: ビニール被覆、新梢管理(芽かき、誘引、摘心)、植調剤処理、結実管理(花穂の整形、摘粒)、 剪定、土づくり、除草 ・病虫害診断とその防除法									
	2 年 生	1 将来の果樹経営のために重要な課題を取り上げ、プロジェクト活動を行う。 2 担当作物の栽培管理を通じて、高品質生産のための管理技術を身に付けるとともに、経営感覚を養う。 3 生育調査、品質調査を通じて調査方法の修得を行う。									
番号	ほ場	作目	品 種	1	2	3	4	5	6	7	8
16	ガラス 温室 1a	ぶ ど う	紫苑	-- x --			△-☆	G-G	◇	◇◆	
17	ガラス 温室 1a	ぶ ど う	瀬戸ジャイアンツ	-- x --			△-☆	G-G	◇	◇◆	
18	硬 質 ブ ラ ウ ン ス 16a	ぶ ど う	マスカット・オブ・アレキサンドリア シャインマスカット ロザリオ ビアンコ 瀬戸ジャイアンツ、マスカット ビオレー ゴールドフィンガー、オリエンタルス ター ナガノパープル	-- x --			△-☆	G-G	◇	◇◆	□
19	硬 質 ブ ラ ウ ン ス 4.8a	ぶ ど う	ピオーネ オーロラブラック シャインマスカット	-- x --			△-☆	G-G	◇	◆	□
38	簡 易 被 覆 10a	ぶ ど う	ピオーネ オーロラブラック シャインマスカット クイーンニーナ	-- x --			∩-△-☆	G-G	◇	◆	□
36 37 41	露 地 24a	も も	はなよめ、加納岩白桃 さきがけはくとう、夢あさま 白鳳、あかつき、なつごころ 清水白桃、おかやま夢白桃 白麗、白皇、白露、黄金桃	x-▼	▼	▼	●	◇	◆	□□□□□□□□	
40	露 地 5a	か き	富有、次郎 太秋、西条 愛宕、早秋		x			○	◇	◇	
39	露 地 6a	す も も	大石早生、李王		x		●	◇		□□□□	

凡例 x:剪定、△:加温、▼:摘蕾、◇:ビニール被覆、△:発芽、☆:芽かき、○:開花、●:人工受粉、G:ホルモン

。 袋かけ、収穫、施肥、				演習の内容 1 1年間の栽培計画とプロジェクト実施計画の作成 2 生育調査、果実品質調査の実施 3 文献及び現地講習等による栽培技術の学修 4 調査結果の取りまとめと分析 5 プロジェクト発表の準備	
9	10	11	12	ねらい	研究課題
-----□□□□□#-----				・紫苑の栽培技術の修得	・着色向上技術の検討
--□□□□#-----				・瀬戸ジャイアンツの栽培技術修得	
]□□□□□□□□□□-#				・欧州系ぶどう品種の施設栽培技術の修得 ・無核栽培技術の修得 ・ぶどうの若木育成技術の修得	・果実品質向上技術の検討 ・着色向上技術の検討 ・ホルモン処理の検討
]□□-----#-----				・欧米雑種ぶどう品種の基本技術の修得 ・ぶどうの若木育成技術の修得	
□□□-----#-----				・欧米雑種ぶどう品種の基本技術の修得 ・ぶどうの若木育成技術の修得	・着色向上技術の検討 ・晩腐病対策の検討
]□□-----#-----				・ももの基本技術を修得 ・ももの若木育成技術の修得	・安定生産、品質向上対策の検討
-----□□□□-#----				・かきの基本技術の修得	
-----#-----				・すももの基本技術の修得	

処理、◇:摘果、◆:袋(笠)掛け、□:収穫、#:施肥・土づくり

イ 野菜コース

実習 内容 と 到達 目標	1 年生		1 野菜全般の栽培管理や施設管理を体験し、野菜の作型や輪作体系を理解し基礎的栽培技術を 2 プロジェクト学修計画を樹立する。 3 主な学修項目：有機物施用法、基肥施用法、耕うん法、播種法、間引き法、接ぎ木法、定植法、 方法、中耕・土寄せ法、収穫・選別・荷造り法、病害虫診断・防除法、雑草管理法、土壌消毒法、 ハウスの被覆法、内張カーテンの張り方、暖房機の整備法、ハウス温度管理技術、電熱温床の (塩類濃度・pH測定器の使い方)、収穫物の糖度測定法等							
	2 年生		1 プロジェクト学修として、作目を選定し、研究課題を設定して一貫したほ場管理を担当する。 2 経営管理面では労働時間及び生産費、販売量、売上高を把握し、現状分析と将来の営農計画 3 主な学修項目：主要農薬の混用法、除草剤の使用法、植物成長調整剤の利用法、土壌病害虫 法、収穫物の鮮度保持法、被覆資材利用法、電照方法、プロジェクト学修の調査結果分析法、							
番号	ほ場	作 目	1	2	3	4	5	6	7	8
1	硬質フィルム (エフクリーン) 210㎡	たまねぎ	□ □							
2	硬質フィルム (エフクリーン) 217㎡	大玉トマト (養液土耕)	△---●-----○-----□□□□□□□□□□							
3	硬質フィルム (エフクリーン) 210㎡	ブロッコリー	△-----○-----□□□							
4	硬質フィルム (エフクリーン) 210㎡	いちご(育苗)	△-----◎-----							
6	硬質プラスチック (FRA) 157㎡	野菜苗全般育苗	(なす、トマト、きゅうり、葉菜類等)							
7	軟質フィルム (ビニル) 120㎡	アスパラガス 軟弱野菜	-----□□□□□□□□-----□□□□□□□□ △-----□□ △-----□□ △-----□□ △-----□□ △-----							
8	硬質プラスチック (MMA) 216㎡	スイートコーン	○-----□□ △-----							
9	軟質フィルム (PO) 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
10	硬質プラスチック (MMA) 216㎡	ミニトマト (養液土耕)	△---●-----○-----□□□□□□□□□□							
11	軟質フィルム (PO) 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
12	硬質プラスチック (MMA) 216㎡	ピーマン (養液土耕)	△-----●-----○-----□□□□□□□□□□□□							
13	軟質フィルム (PO) 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
14	軟質フィルム (PO) 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
34	露地 430㎡	すいか	△--▼---●---○-----□□□□ △--▼---●---○-----□□□							
15	有機ビニルハウス 216㎡ 有機露地 110㎡	にんじん、だいこん かぼちゃ	△-----□□□□□ △-----□							
35	露地 440㎡	アスパラガス	-----□□□□□-----□□□□□□□□□□							
44	露地 (畜産ほ場)	たまねぎ にんにく	-----□ □ -----□ □							

凡例 △：は種or親株植付、▼：接ぎ木、●：移植、◎：採苗、○：定植、□：収穫

修得する。				演習の内容	
灌水法、整枝・誘引法、マルチングの育苗培土の配合と消毒法、ビニール作り方、育苗管理技術、土壌分析法				1 プロジェクト実施計画の樹立	
				2 生育調査、収穫調査、コスト調査、市場性調査の実施	
				3 プロジェクトの遂行中に生じた問題点の原因究明	
を樹立する。				4 最新の栽培技術情報の収集とその理論の学修	
の防除法、追肥施肥法、葉面散布				5 プロジェクト調査結果のとりまとめ	
将来営農計画の樹立				6 プロジェクト発表の準備	
9	10	11	12	ねらい	研究課題
△-----○--				・たまねぎの栽培技術の修得	・竹炭利用による収量・品質向上の検討
□□□□□□□				・大玉トマトの栽培技術の修得	・耐裂果性品種の利用による収量・品質向上の検討
				・ブロッコリーの栽培技術の修得	
-----○				・いちごの育苗技術の修得	
				・野菜育苗の基礎技術の修得	
□□□□□□----- --□□ △-----□□				・アスパラガスのハウス栽培技術及び軟弱野菜の周年栽培技術の修得	
-----□□				・スイートコーンの栽培技術の修得	・有機質肥料利用による糖度向上の検討
○-----□□				・いちごの高設栽培技術の修得	・マルチ無し栽培による春季の品質向上の検討
□□□□□□□				・ミニトマトの栽培技術の修得	・少量かん水量による糖度向上の検討
○-----□□				・いちごの高設栽培技術の修得	・二酸化炭素株元施用による収量・品質向上の検討
□□□□□□				・ピーマンの栽培技術の修得	・密植栽培による収量・品質向上の検討
○-----□□				・いちごの高設栽培技術の修得	・不受精果減少を目的としたビーフライ導入の検討
○-----□□				・いちごの高設栽培技術の修得	・二酸化炭素全体施用による収量・品質向上の検討
				・すいかの露地栽培技術の修得	・ユウガオを用いた小玉スイカの種なし化の検討
□□□				・有機無農薬栽培の基礎技術の修得	
□□□□□-----				・アスパラガス栽培の基礎技術の修得	
△-----○--				・たまねぎの栽培技術の修得	・竹炭利用による収量・品質向上の検討
○-----				・にんにくの栽培技術の修得	・マルチ栽培による収量・品質向上の検討

ウ 花きコース

実習内容 と到達目標	1年生	1 主要花きの基礎的な栽培技術や施設管理を修得する。 栽培技術:は種、育苗、ほ場準備、定植、かん水管理、温度管理、病害虫防除、収穫、出荷調整、灌水施肥同時施設管理:被覆資材の保守・張替、暖房機の保守点検、防除機やトラクター、土壌消毒機等、管理用機械の使用法 2 主要花きの基礎的な栽培に関する知識を修得することにより、観察力や栽培管理に関する問題意識を持たせ、2年行う。								
		2年生								
番号	ほ場	作 目	1	2	3	4	5	6	7	8
			1	2	3	4	5	6	7	8
20	ガラスハウス 100㎡	鉢物カーネーション	☆				□ □ □			
		花壇苗		△ ~ △	☆ ~ ☆		□ □			
21	ガラスハウス 100㎡	小ぎく・輪ぎく				◇ ~ ○ ×			△ ~ ~ ☆	
22	ガラスハウス 100㎡	カーネーション	□ □ □	□ □ □	□ □ □	□ □ □ □		○	×	×
23	ガラスハウス 100㎡	シクラメン ガーデンシクラメン	~ △ ~	~ ~ ~	~ ~ ☆			☆		
24	育苗温室 100㎡	花壇苗・鉢物等	~ ~ ~	△ ~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~
25	組織培養 順化室 75㎡	きく、カーネーション等	---	---	---	☆	---	□ □ □		
		各品目育苗	△ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~
26	ガラスハウス 239㎡	スイートピー等施設花き								
27	ガラスハウス 200㎡	スタンダードばら	□ □ □	□ □ □	□ □ □	□ □ □	□ □ □	□ □ □	▼	▼
28	硬質プラス チックハウス 100㎡	花壇苗(春出荷) (夏~秋出荷) (秋~冬出荷)	△ ~ ☆			□ □ □ □		□ □	△ ~ ~ ☆	△
29-1	ビニルハウス 133㎡	ブプレウラム			□ □					△
29-2	ビニルハウス 130㎡	ストック		□ □ □	□ □ □	□ □ □				
		宿根かすみ草			×			□ □ □	×	
30	硬質プラス チックハウス 286㎡	ユーストマ、きんぎょそう 等施設花き								
31	冷房育苗 ハウス 36㎡	ラークスパー								△ ~ ~
		葉ぼたん								△ ~ ~
		パンジー							△	~ ~ ~
33	ビニルハウス 66㎡	小ぎく 新てっぽうゆり	△ ~ ~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	◇ ~ ○ ×			□ □	
42	露地 50㎡	ひまわり、葉ぼたん等 露地花き								
43	露地 120㎡	りんどう			△	~ ~ ~	~ ~ ○		□ □	□ □ □
		小ぎく・輪ぎく					◇ ~ ○ ×			

凡例 △:は種or発芽、~:育苗、◇:挿し芽、&:接ぎ木、●:移植、▼:摘蕾、○:定植、☆:鉢上げor鉢替え、×:摘心、□:収穫

				演習の内容	
用等、基本技術の修得 の修得 次の個別プロジェクトの課題設定を				1 プロジェクト課題品目の特性や栽培上の問題点の調査 2 栽培計画及び調査課題の設定 3 病害虫診断と対策 4 生産、消費の動向、市場調査 5 調査結果の取りまとめ、分析方法の研究 6 プロジェクト発表の準備	
を行う。また、栽培計画や調査計画を					
9	10	11	12	ねらい	研究課題
	☆			・鉢物カーネーションの生産技術の修得	・電照を用いた鉢物カーネーションの栽培
□ □ □				・パンジー、ペチュニア等花壇苗生産技術の修得	・灌水、施肥方法や温度管理の検討
△ ~ ~ ○ ×			□ □	・小ぎく、輪ぎくの切り花生産技術の修得	・散水処理による開花調節技術の検討
	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □	・カーネーションの切り花生産技術の修得	・栽植密度と電照が収量及び品質に及ぼす影響
		□ □	△ ~ □ □ □	・シクラメンの高品質生産技術の修得	・新たな培土による安定生産技術の検討
~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	・は種培土、育苗倍土の生産技術の修得	・発芽、育苗に適した培土の検討
			☆	・組織培養苗の順化技術の修得 ・各品目繁殖方法の修得	・組織培養苗の順化中の管理方法の修得 ・種子繁殖、栄養繁殖苗の管理方法の修得
~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ △		
				・施設花きの栽培技術の修得	・コンテナを利用した施設花きの生産栽培の検討
□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	・スタンダードばらの高品質生産技術の修得	・天敵利用によるばらのハダニ類の抑制とコスト削減
□ □ □ □	□ □ □ □			・花壇苗生産技術の修得	・高品質な苗の生産技術の検討
~ ~ ☆	□ □ □ □ □ □		□ □		
~ ○	△ ~ ~ ○			・ブプレウラムの栽培技術の修得	・育苗方法の検討
△	○			・ストックの栽培技術の修得	・八重鑑別技術の修得
	□ □ □			・宿根かすみ草の管理作業の修得	・摘心時期の検討
				・施設花きの栽培技術の修得	・安定生産技術の検討
~ ~ ~					
~ ~ ~				・冷房育苗技術の修得	・苗の安定生産技術の検討
				・小ぎくの栽培技術の修得 ・新てっぽうゆりの栽培技術の修得	・物日需要に対応した開花技術の検討
				・露地花き品目の栽培技術の修得	・灌水方法や植栽密度の検討 ・染色等付加価値を付けた出荷技術の検討
□ □ □				・りんどう栽培技術の修得	・極早生品種の生育促進の検討 ・高温障害回避技術の検討
□ □				・9月出荷における栽培技術の修得	・物日需要に対応した開花技術の検討

◆:冷蔵

エ 畜産課程(和牛コース)

実習内容 と到達目標	学年	1 年生																		
	本校	1 飼料作物の栽培管理及び収穫調製技術を修得する。 2 家畜市場等を調査する。 3 先進農家を視察研修する。 4 農業機械の基本的な運転技術を修得する。												1 家畜の飼養管理技術を修得(分校 2 プロジェクト課題を設定する。 3 プロジェクト調査結果をとりまとめ、						
	分校等	1 家畜の飼養管理技術を修得(分校実習)する。 2 より実践的な飼養管理技術を修得(校外実習)する。												1 家畜の飼養管理を行う。 2 飼料作物生産、調製、貯蔵、利用 3 家畜市場等を調査する。 4 先進農家を視察研修する。 5 プロジェクト調査研究を行う。 6 各種資格を取得する。 (家畜人工授精師、2級牛削蹄師、						
作 目		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7			
飼料作物	冬作 (イタリアンライグラス)		□		□															
	夏作 (トウモロコシ)			○				□												
	夏作 (スーダングラス等)					○				□										
	いも類		○							□										
家畜管理・2年次	繁殖管理																↔			
	哺育・育成管理																↔			
	肥育家畜管理																			
	種雄家畜管理																			
	畜産環境保全																←			
	飼料作物管理																↔			
	校外実習																↔			

凡例 ○:は種・定植、□:収穫

2年生									
実習)する。 る。		1 プロジェクト課題を取りまとめる。 2 卒業論文を取りまとめる。			演 習 の 内 容 1 飼料作物の乾草調製 2 家畜の一般管理 3 畜産環境保全及び堆肥化 4 プロジェクト課題の設定 5 プロジェクト調査・研究 6 プロジェクト調査結果の取りまとめ、発表演習 7 家畜の審査 8 畜産物の流通・市場動向調査				
技術を修得する。									
家畜商)									
8	9	10	11	12	1	2	3	ねらい	研究課題
		○							
								・飼料作物の栽培体系 ・堆肥を利用した施肥設計 ・サイレージ、乾草調製技術の修得	・飼料作物別の施肥設計の検討 ・サイレージ化に合った刈取適期の検討 ・乾草生産と生産歩留まりの検討 ・飼料作物品種比較 ・牧野の害草防除及び病害虫の防除技術の検討
								・繁殖家畜の飼養管理技術の修得	・種付適期と人工授精
								・哺育・育成牛の飼養管理技術の修得	・若齢家畜の発育と育成技術
		←→						・肥育家畜の飼養管理技術の修得	・家畜の交配と肉質 ・家畜肥育管理
		←→						・種雄家畜の飼養管理技術の修得	・種雄牛の改良 ・精液検査
								・畜産環境保全及び堆肥生産技術の修得	・家畜ふん尿処理及び利用
								・飼料作物の栽培管理・技術の修得	・飼料作物の品質とその特徴
	←→							・より実践的な飼養管理技術の修得	・先進農家の実態と経営

(6) 総括学修

演習の内容と到達目標	1 地域の農業環境条件の特性と営農状況との関係を理解する。		[農業経営計画の作成] 1 我が家(地域)の農業経営の実態と問題点を把握する。							
	2 合理的な農業経営に関する知識・技術について理解する。		2 農業経営改善計画の作成方法・手法を理解する。 (1)経営目標と経営条件 (2)作目編成と作目規模 (3)部門計画、全体計画							
3 経営改善、地域農業振興の方法、手順について学修する。		3 パソコンを利用して経営実態や経営計画のとりまとめを行う								
4 プロジェクト研究の意義と方法・手順・とりまとめについて学修する。										

総括学修（卒業論文）	項目	1 「私の農業経営計画」の作成（2年生） 2 プロジェクト研究（2年生）	1	2	3	4	5	6	7	8
			●----- ○-----							
	内容	●農業経営計画 ○プロジェクト学修	○プロジェクト計画立案		○プロジェクト計画発表	●経営計画作成準備	○プロジェクト中間発表	○プロジェクト中間発表	○プロジェクト中間発表	

							[プロジェクト研究] 1 課題の選定:農業経営の実態と問題点を把握する。 2 問題解決の方法:問題の発生原因の考察、解決の方法・手順の検討、計画の樹立を行う。 3 プロジェクト研究:栽培等―調査―分析を行う。 4 研究成果のとりまとめ:調査結果、分析資料の整理とりまとめと考察を行う。	
9	10	11	12	1	2	3	ねらい	研究課題
-----●-----●-----● -----○							1 農業経営の現況と問題点の理解 2 経営改善、地域農業振興の方法、手順の理解 3 プロジェクト研究の意義と方法、手順の理解 4 調査、分析診断、計画・整理の理解、能力の養成	1 学修成果の点検(復習)、補完学修の必要な科目事項の整理 2 地域農業や我が家の農業経営に関する問題点の分析、実践計画の作成 3 資料作成、発表方法の修得
○ プロジェクト 中間発表	● 経営計画 作成準備	○ プロジェクト 計画発表	○ プロジェクト 実績発表	● 経営計画 作成		● 経営計画 完成		

(7) 免許・資格の取得

- ・在学中に次の免許・資格を取得する機会が与えられる。
- ・それぞれ事前に受験のための講習会、研修会等を実施する。

免許・資格等	対 象	試験日等
刈払機取扱作業安全衛生教育	1年次	4月
危険物取扱者乙種第4類	1年次、2年次	6月、10月、2月
フラワー装飾技能士(2・3級)		7月、12月
日本農業技術検定(1・2級)		7月、12月
農業簿記検定(1～3級)		7月、11月
狩猟免許(わな猟)		7月～11月
小型車両系建設機械運転特別教育		7月中旬
大型特殊自動車免許(農耕車限定)		9月
けん引免許(農耕車限定)		11月
フォークリフト運転技能講習		3月上旬
アーク溶接等特別教育		2月中旬
【畜産課程】		
家畜人工授精師	2年次	11月下旬～12月下旬
2級認定牛削蹄師	1年次	11月下旬
家畜商免許	1年又は2年次	2月(2年に1回) R7年度実施

6 学修評価基準

各授業科目の評価は、校則第20条及び第21条の規定によるほか、授業に関する規定第7～9、20条に基づき、次に掲げるとおりとする。

- (1) 各授業科目の考查を受けるために必要な出席時間数は、講義・演習・実技・実験及び特別活動においては授業時間数の70%以上、実習においては90%以上に達すること。
- (2) 出席時間総数は、原則として、授業時間数から学生が欠席、早退又は遅刻した時間数を減じることにより、算定するものとする。また、早退又は遅刻を繰り返した場合は、3回ごとに欠席1回の扱いとする。
- (3) 考查は、試験、論文、報告書その他により行う。
- (4) 考查の成績は100点法により、80点以上を優、80点未満70点以上を良、70点未満60点以上を可、60点未満を不可とし、60点以上を合格とする。
- (5) 考查の結果、不合格科目のある場合には進級又は卒業を認めず、原級留置とする。
- (6) その他(単位数)

本校は学年制であり、単位制ではないが、単位の互換性等を考慮して、授業時間の換算は以下のとおりとする。

- ①講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で1単位とする。
- ②実験、実習、実技については、30時間から45時間までの範囲で1単位とする。

7 教育・寮生活日課表

時 刻	日 課	摘 要
7:00	起 床	○授業内容は都合により直前に変更する場合があります。 ○寮集会室、談話室の使用は原則22時までとする。 ○清掃以外の理由による、22時以降の離室は原則禁止とする。
7:20	朝 点 呼	
7:20～ 8:00	授業準備	
8:00～ 8:45	朝 食	
8:50～10:20	授 業①	
10:20～10:30	休 憩	
10:30～12:00	授 業②	
12:00～13:00	昼 食	
13:00～14:30	授 業③	
14:30～14:40	休 憩	
14:40～16:10	授 業④	
16:10～22:00	自習・寮自治会・ 学生自治会活動	
17:00～19:00	夕 食	
17:00～21:45	入 浴	
22:00	門限・夜点呼	
22:05～22:25	清掃 (月曜日のみ)	
23:00	消灯 (就寝)	

8 先進農家留学研修実施要領

(1) 目 的

県内の先進農家等の優れた経営の中で、農作業や生活を体験し、経営者の知識、技術や経営感覚、さらには人間性を肌で感じることにより、自らの実践力の向上や人間的な成長につなげるとともに、将来の営農計画の糧とする。

(2) 実施主体

岡山県農林水産総合センター農業大学校

(3) 対象学年及び実施期間等

対象学年	実施期間	実施時期	
		前 期	6 月 9 日(月) ～ 6 月 27 日(金) 〈19 日〉
1 年 生	3 1 日	後 期	9 月 22 日(月) ～ 10 月 3 日(金) 〈12 日〉

原則として前期・後期とも同一農家とする。

(4) 研 修 先

農業士及び農業経営や技術の優れた先進農家、法人等とし、農業普及指導センター（畜産の場合は農畜産物生産課（以下、農業普及指導センター等とする））の協力を得て選定する。

(5) 研修期間中における指導

- ア 学生は研修期間中、受入農家の一員としてその経営に従事し働きながら学ぶ。
- イ 受入農家は、学生の学修計画について研修地の農業普及指導センター等及び農業大学校と協議し、計画的な学修指導を行う。
- ウ 学生による農耕車両（トラクター、耕耘機、テラー等）の運転は、ほ場内に限る。学生による自動車（軽四トラック等）の運転は認めない。
- エ 受入農家は、期間中、学生の病気及び作業事故等の防止、特に農業機械等の取扱いには十分注意し、万一事故が発生した場合は、直ちに農業大学校及び農業普及指導センター等に連絡する。
- オ 農業大学校及び農業普及指導センター等は期間中に適宜巡回し、指導を行う。

(6) 経 費

農業大学校運営費とする。

(7) 学生の研修報告書の提出

学生は、研修終了後 10 日以内に、別に定める報告様式により校長に研修報告書を提出する。

(8) そ の 他

学生の受入農家への交通手段は、原則として公共交通機関を利用するものとし、自家用車を利用する場合は、自動車等使用許可願を提出し、校長の許可を得る。

9 令和7年度応用技術研修等計画

農業技術の近代化・専門化・多様化に伴い、営農に関する知識、技術、資格は就農に必要不可欠となっている。このため、地域農業の担い手を養成する観点から、学生のみならず新規参入者を含む農業者も対象として、先進的な農業を営む上で必要な機械操作等の修得に係る応用技術研修を実施する。この他に学生を対象に営農に関する知識や技術を修得する特別講義等を実施する。

※下表中「(1)取得可能な免許又は資格」については、所定の講習等終了後又は試験合格後に、別途登録申請等を要する場合がある。

研修等科目	(1) 取得可能な免許又は資格※ (2) 研修内容	(3)研修会場 (4)試験会場	(5) 研修期間 (6) 試験日	対象・ 人員	講師 (主催)
小型車両系建設機械運転特別教育研修	(1) 小型車両系建設機械運転特別教育 (2) 機体重量3トン未満のパワーショベル等の操作技術、機械の取扱い及び関連法規の講義	(3) 大学校 (4) なし	(5)7/10～11 (2日間) (6)なし	学生及び農業者40名程度	(株)岡山技能講習センター
大特車(トラクター)運転技術研修	(1) 大型特殊自動車免許(農耕車限定) (2) 農耕用トラクターの公道運転技術の修得	(3) 大学校 (4) 県運転免許センター	(5)8/15～9/11 (6)9/5～19 (通算7日間)	学生及び農業者45名程度	(株)岡山技能講習センター
大特車(けん引)運転技術研修	(1) けん引免許(農耕車限定) (2) 農耕用トラクターの公道でのけん引運転技術の修得	(3) 大学校 (4) 県運転免許センター	(5)10/17～11/6 (6)11/5～11/14 (通算6日間)	学生及び農業者30名程度	(株)岡山技能講習センター
アーク溶接特別教育研修	(1) アーク溶接特別教育 (2) アーク溶接機械の取扱い、アーク溶接実技及び関連法規の講義	(3) 大学校 (4) なし	(5)2/13～19 (4日間) (6)なし	学生及び農業者40名程度	(一社)岡山県労働基準協会
フォークリフト運転技能講習	(1) フォークリフト運転技能講習 (2) 最大荷重1トン以上のフォークリフトの取扱い、関連法規の講義・試験及び実技試験	(3) 大学校 (4) 大学校	(5)2/26～3/10 (6)2/26・27学科 3/3～3/10実技 (通算5日間)	学生及び農業者40名程度	(一社)岡山県労働基準協会
2級認定牛削蹄師認定講習	(1) 2級認定牛削蹄師 (2) 削蹄に関する基礎知識及び実技の修得	(3) 酪農大学校 (4) 酪農大学校	(5)(6)11月下旬 (予定)	学生(畜産課程)	(公)日本装削蹄協会
家畜人工授精師講習	(1) 家畜人工授精師免許 (2) 畜産概論等講義及び家畜の飼養管理ほか実習	(3) 酪農大学校 (4) 酪農大学校	(5)(6)11/21～ 12/19(予定)	学生(畜産課程)	酪農大学校職員等
家畜商免許研修	(1) 家畜商免許 (2) 家畜の取引に関する法令、家畜の品種及び特徴等の講義	(3)(4) 県外 (場所未定)	(5)(6)2月上旬 (未定)	学生(畜産課程)	未定
刈払機取扱作業安全衛生教育(農業基礎の講義)	(1) 刈払機取扱作業安全衛生教育 (2) 刈払機作業の安全性確保及び作業者に対する振動障害の防止	(3) 大学校 (4) なし	(5)4/16 (6)なし	学生	(株)岡山技能講習センター
危険物取扱者(応用化学の講義)	(1) 危険物取扱者乙種第4類免状 (2) 危険物に関する法規、基礎化学、消火方法等の修得	(3) 大学校 (4) 県内会場	(5)12～1月 (5日間) (6)6/15, 10/26, 2/8	学生	農 大
狩猟免許(わな猟)特別講義	(1) 狩猟免許(わな猟) (2) 狩猟について必要な知識の講義及びわな猟の技能の修得	(3) 大学校 (4) 県内会場	(5)5/1 (6)6～12月	学生	県職員及びわな猟専門家
フラワー装飾技能士(2・3級)(園芸課程の講義)	(1) フラワー装飾技能士(2・3級) (2) 花束、ブーケの製作及びアレンジメント製作技術等の修得	(3) 大学校 (4) 大学校	(5)5～6月(5日間+補講) (6)7, 9月	学生	1級フラワー装飾技能士
日本農業技術検定特別講義	(1) 日本農業技術検定(1・2級) (2) 1級は農業に関する高度な知識及び技術の修得、2級は農作物の栽培管理の基本の修得	(3) 大学校 (4) 大学校	(5)5/29, 11/7 (6)7/5, 12/6	学生	農 大
農業簿記検定(農業経営分析論の講義)	(1) 農業簿記検定 (2) 農業簿記についての必要な知識の修得	(3) 大学校 (4) 大学校等	(5)5, 6月 (講義5日間) (6)7/6, 11/23	学生	農林水産総合センター職員

10 令和7年度主要行事予定

行事名		令和7年度	(参考) 令和6年度実績
始業式		4月8日(火)	4月8日(月)
入学式		4月9日(水)	4月9日(火)
新入生オリエンテーション		4月10日(木)	4月10日(水)
プロジェクト計画発表会(2年生)		4月21日(月)	4月22日(月)
農大新鮮市		野菜の日(4/26) 果樹の日(9/6) 花きの日(11/22)	野菜の日(4/27) 果樹の日(9/7) 花きの日(11/30)
プロジェクト中間発表会(2年生)		4月28日(月) 6月3日(火) 7月8日(火) 7月15日(火) 9月1日(月)	5月7日(火) 6月4日(火) 7月9日(火) 7月16日(火) 9月3日(火)
中国四国ブロック農業大学校長・同窓会 代表者会議		山口県(日程は仮) 6月10日(火) ~ 6月11日(水)	香川県 6月10日(月) ~ 6月11日(火)
先進農家留学研修 (1年生)	前期	6月9日(月) ~ 6月27日(金)	6月10日(月) ~ 6月28日(金)
	後期	9月22日(月) ~ 10月3日(金)	9月24日(火) ~ 10月4日(金)
アグリ・夢・みらい塾(就農希望者等)		7月23日(水) 三徳園	7月22日(月) 三徳園
オープンキャンパス		6月7日(土) 7月26日(土) 8月23日(土)	6月8日(土) 7月27日(土) 8月24日(土)
中国四国ブロック農業大学校等教務・研 修担当者会議		鳥取県(日程は仮) 8月22日(金)	高知県 8月23日(金)
入学試験	推 薦	9月27日(土)	9月28日(土)
	一般前期	11月15日(土)	11月16日(土)
	一般後期	2月7日(土)	2月8日(土)
収穫祭		10月11日(土)	10月12日(土)
中国ブロック農業大学校研修生のつどい		岡山県 10月15日(水) ~ 10月16日(木)	広島県 10月16日(水) ~ 10月17日(木)
プロジェクト実績発表会(2年生)		11月18日(火) 12月10日(水) 12月11日(木)	12月11日(水) ~ 12月12日(木)
プロジェクト計画発表会(1年生)		11月18日(火) 11月25日(火)	11月26日(火)
中国四国プロジェクト発表会・意見発表会		愛媛県(日程は仮) 1月15日(木) ~ 1月16日(金)	鳥取県 1月16日(木) ~ 1月17日(金)
全国プロジェクト発表会・意見発表会		東京都 2月17日(火) ~ 2月19日(木)	東京都 2月7日(水) ~ 2月9日(金)
卒業証書授与式		3月12日(木)	3月13日(木)
定期休業	夏 季	8月1日(金) ~ 8月21日(木)	8月1日(木) ~ 8月21日(水)
	冬 季	12月24日(水) ~ 1月6日(火)	12月24日(火) ~ 1月7日(火)
	春 季	3月19日(木) ~ 4月7日(火)	3月19日(水) ~ 4月7日(月)

1 1 実習施設配置図



野菜コースハウス	No1～15, 45, 46	3,095㎡
果樹コースハウス	No16～19	2,308㎡
花きコースハウス	No20～33	2,051㎡
野菜コース露地ほ場	No15, 34, 35	9.8 a
果樹コース露地ほ場	No36～41	45 a
花きコース露地ほ場	No42, 43	1.7 a
和牛コース露地ほ場	No44	30 a
水田		224 a